

通学路の安全対策について



遠藤ハル子議員

【質問】 登下校中の児童ら歩行者が犠牲となる交通事故が、全国で続発しています。歩行者の命を守るためには、いま一度安全点検が必要です。

中央小学校の児童生徒の登下校時に危険箇所があります。住宅地内は速度を落とすなど運転手の責任もありますが、通学路で歩道と道路の区別がなく、全部道路に見える箇所もあります。また、横断歩道が必要な箇所もあります。

安全対策を早急に打つには、時間帯制限や夏季はコーンを並べる、花を生けたプランターを歩道に置き道路と区別するなど、の緊急処置をしてはどうかと思いますので、教育長と町長に伺います。

【教育長答弁】 通学路については教育委員会の承認が必要ですが、その決定・廃止等を含めて各学校で行い、危険という箇所があれば報告をいただき、道路管理者ができることは道路管理者が、横断歩道やスピード標識は

総務企画課を通し、公安委員会に要請をする状況です。

【町長答弁】 提言にあるコーンやプランターを置くことで自転車

「子育て新システム」でも公的責任を

遠藤ハル子議員

の通行に支障がでる恐れもありますので、春先に白線を早く引くことで対応できると考えます。学校前の通学路の低縁石についてはご父母の理解をいただき高縁石の横断歩道を利用いただき、ことも必要と考えています。今後も警察、交通安全関係機関と協議を行い、速度の規制や交通安全施設の整備をしっかり進めていきたいと思います。

【質問】 「子育て新システム」の関連法案が審議されています。児童福祉法第24条の「保育に欠ける子どもは市町村が保育しなければなりません」と規定されていますが、「新システム」では市町村の保育実施義務をなくします。

新制度要綱案では、「保育の質は下げない」と言いますがこのシステムの問題は色々あります。保育の質より量的拡大を優先し、株式会社などの参入や株主の配当も認め、認可制から「指定制」となり人員や設備などの基準を満たせば、企業やNPOでも

「ふまねつと運動」で介護・認知症予防と健康保持を

遠藤ハル子議員

原則自由にできます。利益を出そうとすれば、人件費を削り保育の質を落とすか、高い利用料を上乗せすることもでき、子育て世代に大きな打撃となります。保護者の保育負担はどうなるのか、認定されると保育時間はどのようになるのかなど「新システム」

【質問】 「NPO法人ワンツースリー」の提唱した「ふまねつと運動」がいま大変な話題になっ

ています。介護予防、認知症予防に効果があると北海道教育大学釧路校

の生涯教育課程身体スポーツ文化研究室で発明され、サポーターを作り広げています。今後、あそか苑デイサービスや白寿大学、老人クラブなど、色々なサークルでも体験し定期的な「ふまねつと運動」で、手軽にできる介護・認知症予防と健康保持のために取り入れてはどうでしょうか。高齢者だけの運動ではなく年齢も広がるように思います。

町内でも、5団体が「ふまねつと運動」に参加している状況と聞いています。町として今の取り組みと今後の展望を町長に伺います。

【町長答弁】 昨年度から「ふまねつとサポーター」を養成して現在25人がいます。町内全域へ



今話題の「ふまねつと運動」

全道町村議会議員研修会

札幌コンベンションセンター 平成24年7月3日

全道町村議会議員研修会に11名が出席。2氏の講師による講演を聞きました。

はじめに「議会改革の展望と課題」と題し、講師は牛山久仁彦氏（明治大学政治経済学部教授）。牛山氏は、分権社会における自治体の在り方と自治体議会の現状を考える、議会の何を改革するのか、問われる新しい町村議会とその使命と話を進めていきました。身近な事を一緒に考えていきながら、聞いている議員の方々は相槌を打つほど、考えをまとめていくにはタイムリーな話でした。

今、比布町議会では議会改革特別委員会にて「何を議論し何を变えていくか」とスタートしたばかりですので、参考になりました。牛山氏は、「議会の優位性は行政以上に



牛山久仁彦氏



手嶋 龍一氏

住民に身近な議会として行政をチェックし条例を作っていくこと、是非議会は発信をして欲しい」と言われた事は、印象に残りました。

次に手嶋龍一氏（外交ジャーナリスト・慶應義塾大学教授）の「世界の日本・アジアの中の日本」の日本の外交戦略を探ると題した講演。「米大統領は寝室から3秒で核のロックをはずす」核と添い寝をしているアメリカと言われている。北極海航路は21世紀の流通革命だ、日本海への出口を求め中国、オバマ政権のアジア・太平洋復帰、これまではヨーロッパに目を向けていたアメリカがこれからはアジア太平洋地域だと強調。「今後の国際政治はアジアが担っていく事によって変わっていくだろう。その中



会場内での様子

能力がある地域だ。愛する北海道よ、北のフロンティアとして人材を見つけ出し、尊敬される日本になるよう頑張ってください」ととお話をされました。世界に目を転じての話は手嶋氏ならではの外交ジャーナリストとしての話にすっかり引き込まれて聞き入りました。「さて、どうしたらこの講演を日常に生かしていく事が出来るのか」と課題を提起されたように思いました。

両氏の講演は今後の町政、議会活動に生かせる貴重なお話でした。（遠藤 ハル子）